

幼児教育における国際バカロレアへの対応 ～認可幼稚園で初の IB-PYP 導入、静岡県内でも英語園が導入へ～

International Baccalaureate for Early Childhood Education

— First IB-PYP Kindergartens in Gifu and Shizuoka —

鈴木 克 義

SUZUKI Katsuyoshi

キーワード：国際バカロレア、認可幼稚園、一条校、英語保育、インクルーシブ教育

Keywords: IB-PYP, Authorized Kindergarten, Child-care in English, Inclusive Education

概要：文部科学省の「2018 年度までに国際バカロレア導入校を 200 校に」という目標の下、中学・高校を中心にグローバル教育、探究学習、インクルーシブ教育などの特長を持つ IB-DP のカリキュラムを導入する学校が増えてきたが、2020 年度からの小学校英語の教科化、アクティブラーニング（能動的学習）の導入により、国際バカロレアの幼小版である IB-PYP の導入を目指す幼稚園、小学校も増えてきた。これまでのインターナショナルスクールに加え、2016 年には国内の一条校で初めて、英語と日本語による IB-PYP を用いる認可幼稚園が岐阜市に誕生した。静岡県内でも 2017 年度から IB 認可幼稚園が誕生する。

首都圏で始まった英語による学童保育でも、IB-PYP を導入した施設がある。

このような動きに対応して、保育系の養成校でも IB-PYP によるバイリンガル保育を行える保育者の養成ニーズが生まれてきた。東京の保育系短大では専攻科に「国際こども教育専攻」を置き、英語保育者を養成して、付属幼稚園で英語イマージョン保育を行うところも出てきた。

新キャンパスへの移転を機に保育系の定員が増え、短大専攻科が存続する常葉大学でも、保育のグローバル化への対応を本格的に始める時期ではないだろうか。

はじめに：小学校英語の低年齢化、教科化が幼稚園に波及

2011 年度から 5～6 年生で必修となった小学校での外国語活動（英語）が、2020 年度の新学習指導要領で 3 年生開始に早まり、5 年生からは正式な教科となって週 2 コマに増加、評価も行われる。

これに伴ってすでに、初等教育課程を持つ教員養成系の大学では「英語専修」の教員養成を始めたところもある。全国 2 万校以上の小学校で、英語が一斉に教科になるのだから、たいへんな数の教員が新たに必要になるわけだ。

またこれを受けて、幼稚園や認可こども園、プリスクールなどで英語を採り入れる園が急増している。韓国では 1997 年に小学校英語が義務化されて以来、幼稚園での英語競争が過

熱してついに、2013年に政府が一般幼稚園での英語イマージョン教育（英語による保育）を禁止したほどである。

これは子どもへの外国語教育の影響といった理由ではなく、英語イマージョン幼稚園の保育料が年間200万円を超えるなどして、親から不満の声が出たためである。ただ「語学院」に分類される英語幼稚園（日本でいうプリスクール）では英語による教育が認められたため、これらプリスクールや民間の英語スクールに子どもが集中している状況が今も続いている。

日本でも首都圏や大都市圏でまず、同様の動きが起きており、横浜や名古屋などの幼稚園からは、英語ができる幼稚園教諭に月22万円からという求人が来ている。（鈴木 2015）ところが英語ができる幼稚園教諭を養成する教育機関は少なく、慢性的な人材不足で引き抜き合戦も起きている。

さらに静岡県内でも、1994年から英語イマージョン保育を始めたパイオニアである加藤学園幼稚園を筆頭に、それ以前から外国人講師を雇って英語教育を行っていた、牧之原市のすずき幼稚園が日本人教諭による英語イマージョン保育に転換して成果を挙げているし、沼津市では児童数の減少で閉園を決めていたみくに幼稚園が、山梨のマリア国際幼稚園という英語イマージョンこども園の支援を受けて、英語幼稚園として蘇ることになった。（鈴木 2015）

それ以外にも、仙台の英語イマージョン幼稚園である明泉幼稚園が開発した GrapeSEED という教材を使って英語を教え始めた幼稚園が、私の知る限りで富士市のいまいづみ幼稚園、三島のエンゼル、浜松市のずだじこども園、それに2016年から始めた富士宮のリーチェルと、4園に増えている。

常葉大学短期大学部付属のとは・たちばな幼稚園では、以前から月に1回程度、外国人講師を入れて「英語あそび」を行っていたが、小学校での英語強化の流れを受け、園長の肝いりで本格的な日本人講師を雇い、2016年度から月に1回30分ではあるが、基本的に英語による「英語あそび」を行うこととなった。

おりしも地元の自動車部品メーカー大手から、外国人研修生の子どもを受け入れられないかという打診が学園理事を通じてあり、担当者がたちばな幼稚園へ視察に来られることになった。

急増する国際バカロレア対応の幼児教育のニーズ

この自動車部品メーカーでは、静岡県内の東部は裾野市から西部は牧之原市まで事業所を展開していて、海外にも工場があるためアメリカやインドなどから、若手の技術者が研修にやってくる。もちろん海外では単身赴任などという言葉はないので、家族連れである。

転勤が多い技術者としては、子どもの教育は英語で、できればどこに行っても受けられる、国際標準のカリキュラムで受けさせたい。

ところが静岡県内に、英語でIBの教育を行うインターナショナルスクールがないため、東部地区の研修生の子どもはわざわざ東京や横浜のインターナショナルスクールに通い、西部地区は名古屋のインターナショナルスクールまで、おそらく新幹線を通うのだそう。そこで静岡県内で随一、国際教育には力を入れている常葉学園の常務理事に話を通して来たのだと思うが、たちばな幼稚園の英語あそびの内容は評価していただいたものの、英語は

100% どころか月に 1 回 30 分、しかも常勤の英語が話せる幼稚園教諭はいないという状況だったので、その後のコンタクトはない。

以前は短大の英語英文科に「子ども英語コース」を置き、幼稚園教諭の資格を取れるようにして、加藤学園やエンゼル幼稚園など県内の 120 カ所以上の英語幼稚園や英語スクールに人材を送り出して来たパイオニアだった本学だが、附属幼稚園のグローバル対応では後塵を拝する結果になってしまった。

一条校で第 1 号の IB 幼稚園が誕生！

もちろん静岡県内にも、加藤学園のような英語イマージョン教育を行う幼稚園や、無認可で 100% 英語保育を行う MEK、ベイビーバッチなどのプリスクールは存在するのだが、グローバル企業がインターナショナルスクールにこだわるのは訳がある。それは国際バカロレアという、グローバルスタンダードのカリキュラムを彼らが必要としているからだ。

国際バカロレア (International Baccalaureate) とは元々、国連など転勤が多い国際機関で働く職員の子弟のために開発された世界共通のカリキュラムで、3 歳から 12 歳までの初等プログラムである IB-PYP、11 歳から 16 歳までの MYP、それから大学入学資格としても使われる IB-DP がある。基本は英西仏の 3 カ国語だが、日本語版もある。(鈴木 2014)

いずれも従来型の知識を詰め込む教育ではなく、知識の使い方を学ぶ探究型で、文科省が新しい学習指導要領で打ち出しているアクティブラーニング (能動的学習) にも近い。発達障害など、従来の学校では特別な支援を必要とした子どもにも対応する、インクルーシブな教育になっている。こうした要素が、転勤が多くグローバルな研究開発の仕事をしている技術者にも受け入れられるのだろうか、残念ながらこれまで、文科省認可のいわゆる一条校で IB-PYP を採り入れた幼稚園・小学校はなかった。

ところが 2016 年 1 月、ついに文部科学省認可の国際バカロレア幼稚園が、岐阜市に誕生したのだ。

日本における国際バカロレアの導入は、前述の事情により大都市のインターナショナルスクールから始まり、20 校以上に広がっていたが、一条校では 2000 年に DP を導入した加藤学園が最初で、その後加藤学園から転出した副校長がつくった「ぐんま国際アカデミー」、福岡の都築学園が創設したリンデンホールスクールなどが続いたが、いずれも海外の有名大学への進学を意識した IB-DP が中心で、MYP は少なく、幼小の PYP は皆無だった。

ところが 2014 年の 6 月に 7 校のみだった一条校の IB スクールも、2016 年 8 月現在では表のように 15 校と倍増した。しかもついに、一条校 IB-PYP スクールが誕生したのである。世界的には PYP の伸びが最も大きいので、日本でも続々登場するだろう。実際、長泉町のエンゼル幼稚園では、本学英文科卒の教諭が毎日、英語レッスンを行っているが、ここは IB-PYP の導入を目指しており、すでに園長とその教諭が IB の研修を受けている。2017 年 4 月にはエンゼルの他に、東京の町田こぼと幼稚園も IB 園としてデビューする。

第 1 号となった岐阜のサニーサイドインターナショナルスクールは、名前こそインターナショナルだが、実はもともと長良川第二幼稚園と称した純然たる日本の幼稚園で、二代目園長への代替わりの際に名称を変更したものである。従来から英語は積極的に採り入れていたのだが、IB 導入を機に全教員にワークショップを受けさせ、外国人教員には英語で IB を、

表：日本におけるIB認定校（一条校）

名称	都道府県	PYP	MYP	DP
仙台育英学園高等学校（※仙台育英学園高等学校ホームページヘリリンク）	宮城県			○
茗溪学園高等学校（※茗溪学園中学校高等学校ホームページヘリリンク）	茨城県			○
ぐんま国際アカデミー（※ぐんま国際アカデミーホームページヘリリンク）	群馬県			○
玉川学園中学部・高等部（※玉川学園中学部・高等部ホームページヘリリンク）	東京都		○	○
東京学芸大学附属国際中等教育学校（※東京学芸大学附属国際中等教育学校ホームページヘリリンク）	東京都		○	○
東京都立国際高等学校（※東京都立国際高等学校ホームページヘリリンク）	東京都			○
インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢（※インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢ホームページヘリリンク）	長野県			○
サニーサイドインターナショナルスクール（※サニーサイドインターナショナルスクールホームページヘリリンク）	岐阜県	○		
加藤学園暁秀高等学校・中学校（※加藤学園暁秀高等学校・中学校ホームページヘリリンク）	静岡県		○	○
名古屋国際高等学校（※名古屋国際中学校・高等学校ホームページヘリリンク）	愛知県			○
立命館宇治高等学校（※立命館宇治中学校・高等学校ホームページヘリリンク）	京都府			○
英数学館高等学校（※英数学館小学校・中学校・高等学校ホームページヘリリンク）	広島県			○
AICJ高等学校（※AICJ中学・高等学校ホームページヘリリンク）	広島県			○
リンデンホールスクール中高度部（※リンデンホールスクール中高度部ホームページヘリリンク）	福岡県			○
沖縄尚学高等学校（※沖縄尚学高等学校・附属中学校ホームページ）	沖縄県			○

日本人教諭には日本語 IB をさせるようにしたので、反対もなくスムーズに導入できたようだ。もちろん認可幼稚園なので、日本の幼稚園カリキュラムも実施している。

この園にはエンゼル幼稚園のスタッフと見学に行ったのだが、子どもたちは外国人スタッフとは英語で話し、日本人とは日本語で話していて、見事なバイリンガルに育っている。

サニーサイドインターナショナルスクールの渡辺寿之校長との出会いは、実は偶然だった。というより、出会うべくして会ったのかもしれない。

私は以前から、山梨のマリア国際幼稚園理事を務める宮沢由佳さん（本学の元保護者で、現在は参議院議員）より、ニュージーランドの幼児教育に関する話を聞いていて、フィンランドの教育や国際バカロレアとの共通性を感じていた。そこで2016年の2月、私はIB導入を目指すエンゼル幼稚園のスタッフに同行して、ニュージーランドのオークランド郊外にある幼稚園と、オーストラリア・シドニー市内のIB-PYP導入幼稚園・小学校を視察に出かけた。

ニュージーランドはたまたま、フィティアンガという海辺のリゾートタウンに、宮沢議員が昔、親子留学をした日本人経営のエバコナという英語スクールがあり、その隣には以前から小学校～高校までの学校があったのだが、その反対側の隣に2015年12月、エバコナに子どもを通わせていた日本人が経営する Kauri Learners という幼稚園がオープンした。そのオーナーこそ、渡辺寿之校長だったのである。

渡辺校長は渡辺学園の二代目経営者でありながらドイツの大学を卒業した国際派で、自身の子どもと日本の教育が合わないと感じていたため、奥さんと子どもをニュージーランドに住ませ、自身は行ったり来たりという生活を続けている。

ニュージーランドのテファリキとIB

ニュージーランドは日本と自然条件がよく似た南半球の島国で、ポリネシア系のマオリ族という原住民が、後からやって来たイギリス系の白人と仲良く共生している。私も過去に2回、学生のホームステイ研修を引率して滞在したことがあるが、最初のホストファミリーは白人とマオリの夫婦で、テレビではマオリ語の放送もあり、人種差別を感じることはまったくなかった。

こういう社会背景のため、ニュージーランドでは多様な文化と言語を尊重する教育が行われており、Kauri Learnersでも園内のあちこちに、写真のようなサインが貼ってあった。一番大きな字で書かれている Whare Paku がマオリ語で、日本人の子どももいるため真ん中が日本語、一番下に英語という順番である。



現地の言葉を重視するカリキュラムは、ひょっとして国際バカロレアかと思ったが、見せてもらおうとニュージーランドで広く使われている Te Whariki という幼児教育カリキュラムだった。テファリキは1996年に制定された比較的新しいもので、ニュージーランドのオリジナルだそうだが、時期的には1970年代からの国際バカロレアのほうが先、ただしIB-PYPは1997年からなので、ちょうどインターネットの普及とともにグローバル化が進み、それまでの知識詰めこみ型から課題探究型、多文化共生型の教育に転換する時期に期せずして誕生したのが、テファリキとPYPだといえよう。

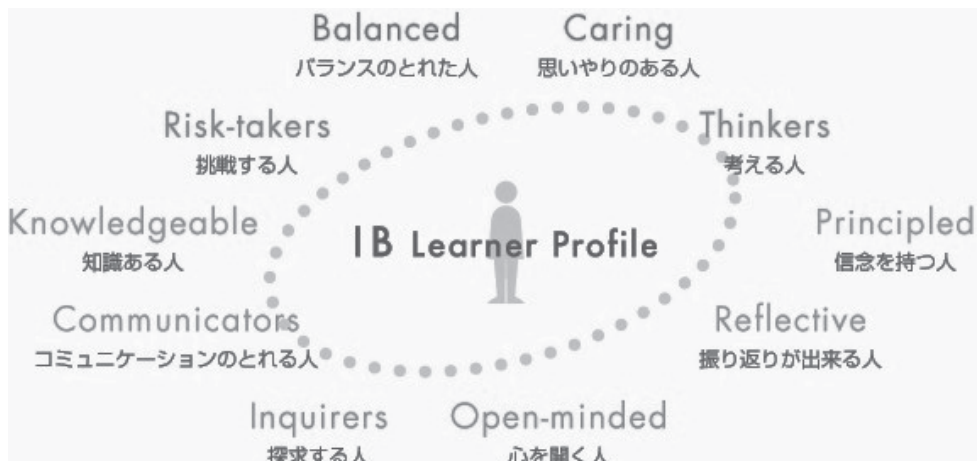
テファリキの4原則

エンパワメント Empowerment	幼児教育カリキュラムは、子どもに学び成長する力を与えるものである。
全体的発達 Holistic Development	幼児教育カリキュラムは、子どもが学び成長している全体的なあり方を反映するものである。
家族とコミュニティ Family and Community	家族やコミュニティといった、より広い世界が、幼児教育カリキュラムにとって不可欠である。
関係性 Relationship	子どもたちは、人々、場所、物との双方向の関係性を通じて学ぶ。

テファリキの5要素

心身の健康 Well-being	子どもの健康及び幸福感が守られ、育まれること。
所属感 Belonging	子どもたちやその家族が所属感を感じることができること。
貢献 Contribution	学習の機会が平等であり、そして子どもたち一人一人の貢献が価値あるものとして認められること。
コミュニケーション Communication	自身の文化、他の文化の言語やシンボルが促され守られること。
探究 Exploration	子どもは、環境の中で能動的な探究を通じて学ぶ。

IB の学習者像



探究のユニット (Units of Inquiry, IB-PYP)

- Who we are (自分自身)
- Where we are in place and time (地理的・歴史的な事象)
- How we express ourselves (自己表現)
- How the world works (自然界の探求)
- How we organize ourselves (人間社会の探求)
- Sharing the planet (地球環境)

テファリキと IB-PYP の類似性と相違

前ページのニュージーランドの幼児教育カリキュラム、テファリキの4原則と5要素、それに国際バカロレア PYP の IB ラーナープロフィール・探究のユニットを比較してみると、ほぼ同時期に誕生したカリキュラムだけあって、かなりの類似性が見て取れる。

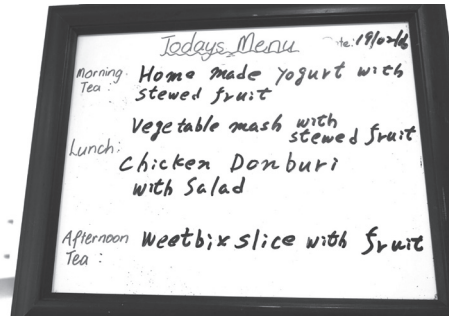
まずコミュニケーションと探究が合致している。テファリキのほうは、コミュニケーションに他の文化や言語を守ることも含めている。探究に相当する英語は、テファリキは Exploration、IB は Inquiry を使っているが、ニュージーランドのほうの外に向かって能動的に探究していく感じ、IB の inquire はもともと質問して真実を追究する意味なので、内省的な探求心を意味している印象を受ける。

IB のほうは幼児期に限らず小学校までのカリキュラムなので、より幅広い感じだが、テファリキの Empowerment は IB の Knowledgeable や Principled、Holistic Development は Balanced や Caring、Family and Community は Units of Inquiry の Who we are や Where we are in place and time に共通性を感じる。

逆にテファリキで特異なのは Well-being という、子どもの心身の健康を守るという要素がカリキュラムに入っていること。ニュージーランドの Kauri Learners で日本人の女性が、自前の農場で育てた野菜を給食に出していたのが思い出される。これは日本の幼稚園でポピュラーな、食育にもつながる。

IB で特筆すべきは、Risk-takers や Sharing the planet か。英語で take a risk は take a chance とほぼ同義語で、リスクを取らなければチャンスは得られないと教えるが、日本ではこれまで、子どもに危ないことはさせないのが普通だった。

地球環境を救うために、ゴミのリサイクルをしたりエネルギーを使わないようにするのは、日本の幼稚園でも普通に行われている。



NZ の Kauri と日本の IB 幼稚園の風景

それでは筆者が実際に見聞きしてきた、ニュージーランドのテファリキを用いる Kauri Learners の様子と、同じ経営者が日本の岐阜で初めて IB 認証を受けたバイリンガル認可幼稚園、サニーサイドインターナショナルスクールを、写真と共に紹介しよう。

Kauri で印象的だったのは、園内のあちこちにキッチンや大工道具など、子どもが自由に使える生活用品が置いてあること。道具箱の中には金づちやノコギリもあったが、日本の幼稚園で子どもに使わせることはまずないだろう。



子どもの成長を記録する「ラーニングストーリー」





ニュージーランドの幼稚園を特徴づけるものの1つが、ラーニングストーリーである。これはほぼすべての幼稚園に置いてあり、保護者がいつでも見られるようにしているようだ。子どもが園で何をしたか、文章だけでなく写真や、子どもが描いた作品なども挟んで、ポートフォリオのスタイルでまとめている。

実際、ニュージーランドの幼稚園では子どもの自主性を重視して、保育者はあまり子どもに手を出さないが、カメラやパソコンなども使ってラーニングストーリーを仕上げるのが一番の仕事だそう。

次の例はこの園のものではないが、ラーニングストーリーもテファリキの5要素に則って書かれていることがわかる。



ラーニングストーリーの参考例（日本語訳）

<p>心身の健康 Well-Being 園で過ごすことが快適になり始めました。ブロックや砂場遊びに興味を示しています。トイレに行きたい時は、教師の手をとってトイレまで引っ張っていきオムツの交換台を指さし手教えてくれています。まだ昼寝はしていませんが、昼寝の時間は横になって静かに休んでいます。2月7日</p>	<p>所属感 Belonging 抱っこしてほしい時、安心したい時に教師のところに行くことができます。教室に教師がいると安心しているようです。粘土で遊ぶなど自分が快適だと思えるアクティビティに興味をもって関わるようになりました。2月22日</p> 
<p>貢献 Contribution ごっこ遊びを楽しんでいます。「家族コーナー」に行き、ティーセットやフルーツ、野菜で遊んでいます。静かに遊んでいるところを見ると、楽しんでいるようです。2月28日</p> 	<p>コミュニケーション Communication マットタイムに参加しています。教師を見ながらアクションを真似しています。動きを追うことを通じて自信をつけています。3月7日</p>  <p>＊歌や絵本の読み聞かせなど、子どもたちが一箇所に集まって過ごす教師主導の時間</p>
<p>探究 Exploration 貝をコップですくうなど、新しいことを学ぶことに興味を持ち、挑戦しています。全て終わるまでとても集中していました。3月14日</p> 	<p>これから 私たちが提供するものに興味をもっています。粘土、砂、ブロックやレゴなどの組み立てるおもちゃ、水遊びなどで遊んでいます。教師として、彼女の学習を助けるために、これからたくさんのアクティビティを用意していきます。3月22日</p>

サニーサイドインターナショナルスクールの IB-PYP

2016年3月、まだIB認証を得て間もない岐阜のサニーサイドインターナショナルスクール幼稚園へ、エンゼル幼稚園園長とIB担当の教諭を同行して見学に出かけた。

IBコーディネーターを務めるチャウ・ミント先生は日系のオーストラリア人で、現地で小学校教諭をしていた若い男性だが、子どもにはネイティブの英語で話しかけ、日本人スタッフには流暢な日本語を話す。他にも数名の外国人スタッフがおり、外国人は英語で、日本人の教諭は日本語でIB教育を行っているので、子どもは自然にバイリンガルに育っている。ただLearner ProfileなどのIB用語は、日本人スタッフも英語で使いこなしていた。

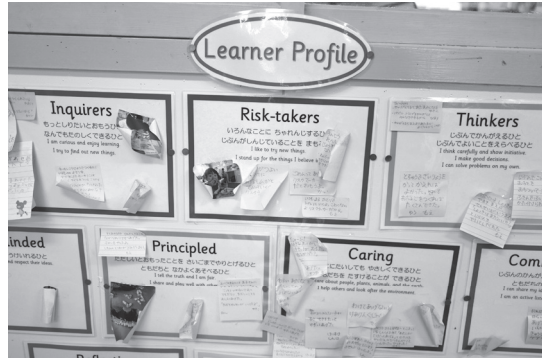


IB-PYPは英語でやっても現地語でやってもいいことになっているのだが、ここは外国人

と日本人でうまく役割分担をしているため、英語で保育してほしいという保護者のニーズにも応えられるし、英語はあまり自信がない日本人教諭にも抵抗がなく、IB スクールへの移行がスムーズに進んだようだ。

IB の理念を表す Learner Profile や Units of Inquiry は園内のあちこちに、具体的な事例と一緒に張り出されている。これも英語と日本語、両方で。

ニュージーランドの幼稚園からは、ラーニングストーリーが持ち込まれていた。ここはテファリキとIB、それに一条校なので日本の幼稚園学習指導要領も含め、すべてのカリキュラムから良いところ取りをしているように見えた。



何でも疑問に思ったことや、自分の意見などを書き付けていい Wonder Wall (ふしぎのかべ) はIB から。これはデンマークのビルン・インターナショナルスクールにもあった。(鈴木 2014)

日本人教諭のスタッフはみなフレンドリーで、こちらの質問にも快く答えてくれ、首都圏の英語幼稚園やインターナショナルスクールでよく感じる、ピリピリと張り詰めた雰囲気は皆無だった。

見学後、校長とゆっくり懇談する機会があったが、保守的な岐阜で苦勞しながらもIB スクールを実現する Risk-taker であり、後に続く我々のような仲間にも包み隠さずノウハウを提供しようという、IB でいう Open-minded を併せ持った人だと感じた。やはりこういう人物がトップにいないと、一朝一夕ではできるものではないだろう。



おわりに：IB 教員と英語保育者の養成は専攻科で

日本初の IB 認可幼稚園、サニーサイドインターナショナルスクールに続き、来春には静岡県内にエンゼル幼稚園、さらに町田こぼと幼稚園が IB スクールに転換する。

IB では中高の DP、MYP を 21 世紀初頭から実践してきた加藤学園も、先日行われた国際バカロレア教育学会の場で、IB コーディネーターのポストウィック博士が「今すぐにも PYP をやりたい」と明言していた。小学校でも何校か、準備に入っていると聞く。

となると、何としても必要なのは IB-PYP の教員養成である。同学会で文部科学省の国際課長が、外国人に IB 教員の免許を取りやすくすると言っていたが、PYP は今、世界的に導入が増えており（鈴木 2014）、外国人教員が喜んで日本に来てくれるとは考えにくい。

そこで日本人で、英語と日本語で IB 教育ができ、幼小の教員免許を持っている人材を養成する必要がある。2014 年度から先行している玉川大学は IB-DP と MYP のみで、しかも日本語 IB である。DP はとくに、海外の大学へ進学するための資格というニーズが高いので、日本語でやってもあまり意味はない。

2017 年度からは筑波大学と都留文科大学が IB 教員養成に参入するが、筑波は IB-MYP と DP のみである。都留文科大は国内の大学で初めて、IB-PYP の教員養成に乗り出すが、免許は初等教育しか取得できないため、IB 幼稚園教諭のニーズに応えることができない。

幼稚園では近年、正課内での英語導入は当たり前で、英語クラスの設置や英語保育を始める園も増えており、首都圏だけでなく静岡でも英語保育者のニーズは急増している。（鈴木 2015）

町田市の鶴川女子短大では、2017 年度より付属幼稚園で英語保育を開始し、それと同時に幼児教育科を国際こども教育学科に改称、専攻科に定員 30 名の国際こども教育専攻を設置して、修業年限 1 年で英語保育者を養成する。国内外でフィールドワークを実施し、海外ではカナダのスプロットショーカレッジと学術交流の協定を結んでいる。

鶴川女子短大では IB 教員を養成すると謳っている訳ではないが、専攻科は短大からの進学だけでなく、すでに保育者の資格を持っていたり、英語保育者として再就職を目指す社会人のリカレント教育も視野に入れており、開講科目の中には「国際こども教育概論」「国際理解」「英語で伝える日本文化」「ポートフォリオと子ども理解」といった、特徴的な科目が含まれる。

今、保育の領域では発達障害など、障がい児も一緒に受け入れるインクルーシブ保育が目ざれつつあるが、IB 教育の理念にもインクルーシブが入っており、幼児教育との親和性は高い。

常葉大学では 2018 年度から、短期大学部と富士キャンパスの四年制保育学部が新設の草薙キャンパスに移るため、短大の専攻科は廃止される予定だったが、短大から四年制への編入がカリキュラムの関係で難しいことが判明したため、当面は専攻科を残すことになった。これを機会に、社会からのニーズが高い国際幼児教育専攻を設置してはどうだろうか。

短大保育科ではここ数年、在学中や卒業後に海外へ留学する事例が増えており、保育英検などの資格を取ると就職にも有利なため、オープンキャンパスでの保護者の関心も高い。さらに、IB-PYP 教員の資格も取れば、英語幼稚園・プリスクールから引く手あまたになるだろう。

草薙キャンパスには四年制外国語学部も移ってくるそうだから、もともと英検などの資格を持つ学生に対して、保育英検やIB教員の資格を取らせ、さらに幼稚園教諭や小学校教諭の免許を科目履修で取得できるようにすれば、好待遇の就職で人気が高まるだろう。

採用する側からは、就学費用や海外研修の費用をスカラシップの形で援助する仕組みを作れば、優秀な人材が採用できて、双方にメリットをもたらすに違いない。

専攻科国際幼児教育専攻の概要(取りたい資格、就職先に応じて各コースを横断的に履修可能)

- ・英語保育コース…英語で保育ができる保育者養成、保育教諭と保育英検の資格取得、ニュージーランドで海外研修を行い、英語保育の幼稚園・プリスクールに就職
- ・国際バカロレアコース…IB-PYPのカリキュラムで教える教諭を養成、オーストラリアで研修、IB教員と保育教諭の資格を取得し、IB幼稚園、英語プリスクールに就職
- ・国際保育士コース…元々英語ができる外国人、帰国生等を対象に日本語と日本文化を教え、保育士資格やIB資格を取らせて、通常の保育園や英語プリスクールに就職
→保育士は最近、国と自治体から就学支援金が出るようになったので、それを利用

参考文献、ウェブサイト

- ・日本経済新聞電子版(2016-8-1)「英語、小5から正式教科に 次期指導要領案」
http://www.nikkei.com/article/DGXLASDG29HCC_R00C16A8EA1000/
- ・THE FACT メディア JAPAN(2014-2-28)「“超高価”私立幼稚園が韓国で大人気…何と1年に200万円以上！」
http://m.thefactjp.com/economy/read.php?sa_idx=10188
- ・鈴木克義(2015)「急速なグローバル化と国際保育者養成のニーズ」常葉大学短期大学部紀要
- ・鈴木克義(2014)「国際バカロレア導入とIB教員養成のニーズ」常葉大学短期大学部紀要
- ・文部科学省(2016-8)「国際バカロレアについて 4. 国際バカロレアの認定校」
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/1307999.htm
- ・サニーサイドインターナショナルスクール ウェブサイト
<http://www.sunnyside-international.jp/>
- ・ニュージーランド KAURI LEARNERS ウェブサイト
<http://www.kaurilearners.com/>
- ・村田佳奈子(2013)「ニュージーランド幼児教育のナショナルカリキュラム Te Whariki の実際と課題」
<http://www.blog.crn.or.jp/lab/01/49.html>
- ・鶴川女子短期大学ウェブサイト
<http://www.tsurukawatandai.ac.jp/>

